

池辺寺リポート

平成31年2月発行



堂床地区で大量に出土したお皿



伐採後の百塚地区

昭和61年に始まった池辺寺の調査は堂床地区の発掘調査が主体で、百塚地区は踏査と木の伐採でした。堂床地区的調査は昭和61年12月から始まり、翌年の2月まで行われました。ミカン畑やブドウ畑が作られていたので限られた範囲での調査であり、さらに遺跡の残りは良くありませんでした。しかしこの調査では、発見されていた塔心礎の残りが出土したことや、大岩の脇から約1200年前のお皿が大量に出土するなど、重要な成果が得られています。このお皿は火を灯す灯明皿として使われたものばかりで、何かしらのお祀りを行った痕跡が堂床地区で確認されたのでした。一方、百塚地区では伐採が進み、枯葉の下から多くの石が顔を出し始めます…

お問い合わせ
熊本市役所文化振興課
埋蔵文化財調査室

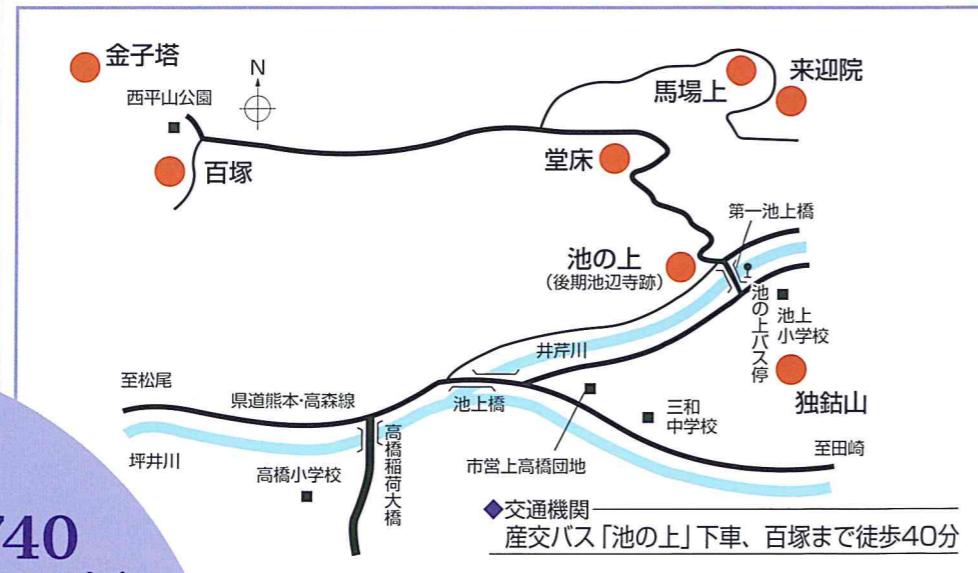
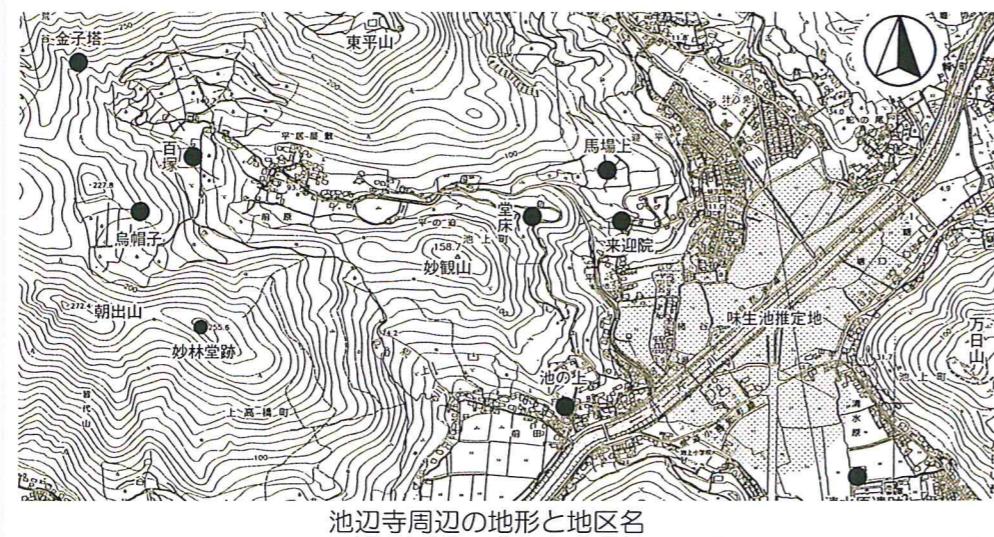
TEL.096-328-2740

E-mail : maizoubunkazai@city.kumamoto.lg.jp

○池辺寺調査の歴史

池辺寺の本格的な調査は昭和61年から始まり、熊本地震の影響で中断した平成28年までの31年間継続してきました。国の史跡として指定を受けた百塚地区と、池辺寺に関連する周辺地域を含めると、広大な面積になります。これまでの調査の蓄積は膨大で、池辺寺という遺跡の神秘性は増すばかりですが、過去に行われた調査の記憶は風化しつつあります。そこで今回から過去の調査を取り上げ、どのようにして池辺寺が明らかになっていったのかを紹介します！

昭和33年に当時の熊本大学の学生が堂床地区で古瓦が落ちていることに気付きます。報告を受けた同大教授の松本雅明氏は、同年に堂床地区を踏査し瓦を採集し、塔心礎も発見しました。松本氏はこの成果をもとに池辺寺に関する初めての本格的な論考である「池辺寺考」を執筆します。昭和42年に熊本市の西部地区の文化財の踏査が本格的に開始され、百塚地区で多くの土器や瓦が採集されました。金子塔の碑文から百塚に池辺寺の中枢があり、堂床地区には三重塔が建っていたと考えられるようになりました。

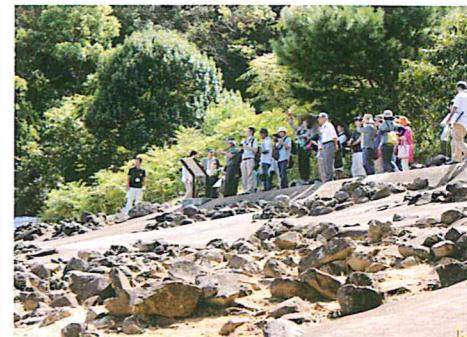


○九州山岳霊場遺跡研究会開催！

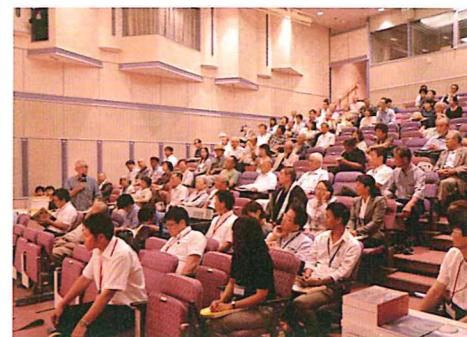
平成30年8月26日に、「肥後の山岳霊場遺跡—池辺寺と阿蘇山を中心とする」と題して、熊本市国際交流会館にて「第八回九州山岳霊場遺跡研究会」が開催されました。この研究会は、九州全体の山岳霊場遺跡の実態解明と、研究者間の情報交換を目的に平成23年8月に発足し、毎年九州各県で開催されている研究会です。平成30年は熊本県を舞台に、池辺寺と阿蘇山を中心とした県内全域の山岳霊場遺跡の実態にせまる試みが、考古学だけでなく歴史・美術史などの様々な学問分野から行われました。

前日の25日には研究会に先駆けて、整備された百塚や金子塔、堂床地区や池上日吉神社などの池辺寺に関連する重要な遺跡を半日かけて巡覧しました。当日は台風の接近もあり、暑い中での見学会となりましたが、池辺寺ガイドボランティアの協力もあって何事も無く終了し、参加者の方々にも肌で池辺寺に触れていただくことができました。

26日の研究会で作成された資料集は過去最大のページ数で参加者人数もこれまで最も多いなど、研究会は大盛況でした。池辺寺で調査が本格的に開始されてからおよそ33年、国の史跡に指定されて21年の歳月が経っていますが、古代池辺寺の中枢である百塚地区が整備されたことで、専門の研究者の方々だけでなく、地域の方々からの関心もさらに高まっていると言えます。



現地見学会の様子



話に耳を傾ける参加者

研究会の様子



熊本市立池上小学校
3年生児童（平成30年度）
の作品です。

あじうの いけ りゅう
「味生池と龍」伝説を
描いています。



○平成30年の活動

○展示

金峰山少年自然の家にて池辺寺跡出土土器・瓦を展示中

熊本市蓮台寺文化財資料室にて土器・瓦・石製品などを展示中

熊本博物館にて土器・瓦・石製品などを展示中

肥後の里山ギャラリー「肥後の山岳信仰 阿蘇山と池辺寺～龍伝説の残る山岳寺院～」にて展示 7月17日～9月1日

○講演など

肥後の里山ギャラリー「肥後の山岳信仰 阿蘇山と池辺寺～龍伝説の残る山岳寺院～」ギャラリートーク 8月18日

池辺寺観音祭講話「池辺寺調査の歴史」 9月10日

第八回 九州山岳靈場遺跡研究会「肥後の山岳靈場遺跡一池辺寺と阿蘇山を中心に一」 8月26日

○見学会・ウォーキング

JR九州ウォーキング 「西郷ゆかりの地と史跡池辺寺跡めぐりウォーク」 4月21日

第八回 九州山岳靈場遺跡研究会「肥後の山岳靈場遺跡一池辺寺と阿蘇山を中心に一」現地見学会 8月25日

○地域行事

池上小学校「味生祭」 2月11日

池辺寺祭 3月4日



池辺寺祭の様子



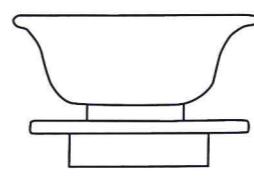
味生祭での擬似発掘体験

出土品の紹介⑨ 土製鋳型

現在史跡整備されている百塔と本堂跡。その東側の雑木林とミカン畠がある地点を百塚B地点としています。今回紹介するのは、その百塚B地点から出土したもので、土でつくられた鋳型の破片です。この鋳型は「六器」を造る為のものです。六器とは、主に密教宝具として用いられるもので、金銅製の碗と、金銅製の皿の様な台を取り付けたものです。六個を一セットとして用いるので、「六器」といいます。山岳修験と関わりのある池辺寺からこのような遺物が出土することはとても重要なことです。



出土した鋳型（下3点）と
炉の一部（上1点）



六器の形

またこの鋳型は同じ場所からまとめて出土し、その近くからは銅の鋳や銅滓が付着した炉の一部が見つかっています。他にも鉄滓などが出土していますので、近くで鉄や銅製品を生産していた可能性を示すうえでも重要な遺物です。